



レトロ・レトロの展覧会 2015

2015.7.18 - 8.31

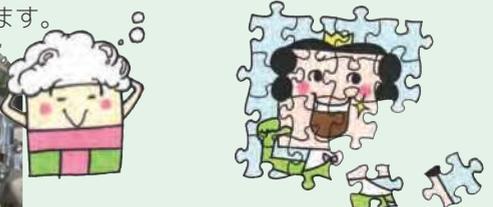
主催：公益財団法人滋賀県文化財保護協会
共催：滋賀県教育委員会



のぞいてみよう！整理室

発掘調査で出てきた土器や木器は、滋賀県埋蔵文化財センターや滋賀県立安土城考古博物館内の整理室に運び込まれます。

そこで、復元したり、じっくり観察して図面を作ったり、発掘調査の報告書を作るまでの作業を行います。



きれいに洗うことから始まります。模様などが消えてしまうので、細心の注意が必要です。



破片を一つずつ探し出して、元の姿に復元します。



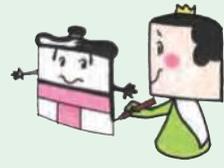
復元できた土器を実測し、図面を作ります。



コンピューターを使って、製図します。同時に、報告書に掲載できるように、編集します。



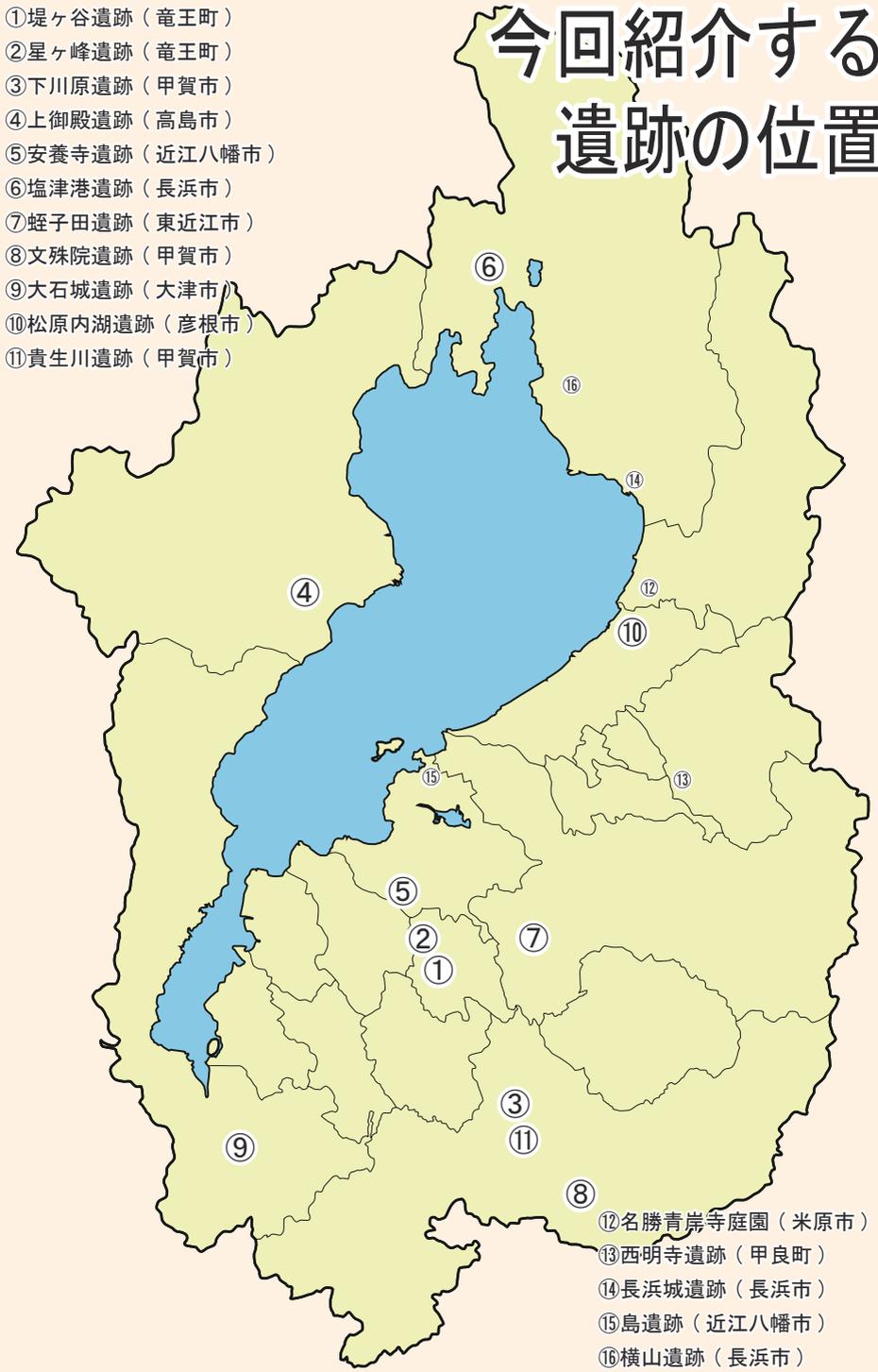
報告書執筆中！じゃまをしないでください。



* 展覧会開催中の平日 13時から滋賀県埋蔵文化財センターの整理室のバックヤードツアーを開催します。
(30分程度・無料・開館時間内常時受付)

- ① 堤ヶ谷遺跡 (竜王町)
- ② 星ヶ峰遺跡 (竜王町)
- ③ 下川原遺跡 (甲賀市)
- ④ 上御殿遺跡 (高島市)
- ⑤ 安養寺遺跡 (近江八幡市)
- ⑥ 塩津港遺跡 (長浜市)
- ⑦ 蛭子田遺跡 (東近江市)
- ⑧ 文殊院遺跡 (甲賀市)
- ⑨ 大石城遺跡 (大津市)
- ⑩ 松原内湖遺跡 (彦根市)
- ⑪ 貴生川遺跡 (甲賀市)

今回紹介する遺跡の位置



- ⑫ 名勝青岸寺庭園 (米原市)
- ⑬ 西明寺遺跡 (甲良町)
- ⑭ 長浜城遺跡 (長浜市)
- ⑮ 島遺跡 (近江八幡市)
- ⑯ 横山遺跡 (長浜市)



「高地性集落」か！ 丘の上から弥生時代の集落発見

堤ヶ谷遺跡：蒲生郡竜王町岡屋



【竪穴住居】平面形が直径6m以上の円形で、壁に沿って溝が巡っています（壁溝）。屋根を支えていた柱を据えていた穴が弧を描くように並んでみつかりました。



【出土した石器類】石鏃やその未成品（写真左）とともに、稲刈りに使用する石包丁や、勾玉・管玉などの装身具を作っていたことを示す玉の未成品（写真右）などもみつかっています。

堤ヶ谷遺跡は、蒲生郡竜王町南部の丘陵上にあり、弥生時代の集落跡として知られています。工業団地造成事業にともない平成23年度から発掘調査を行っており、弥生時代の竪穴住居や中世から江戸時代にかけての墓地、素掘りの地下壕群などがみつかっています。今回の発掘調査では、主に弥生時代中期（約2,000年前）の竪穴住居（写真上）3棟が見つかりました。

堤ヶ谷遺跡の弥生時代中期のムラは、竜王町の平野部を一望できる見晴らしのよい場所に立地します。石鏃やその未成品（写真下左）

が多く出土することから、近くのムラとの戦いにそなえてつくられた、防衛的な性格をもつムラだった可能性が考えられます。このようなムラは「高地性集落」と呼ばれ、滋賀県内では11カ所でみつかっています。しかし、一方で、稲作に用いられた石包丁や玉類の未成品などの製作工房にかかわる道具（写真下右）なども発見されており、平地の農耕集落と共通した様相も認められます。そのことから、遺跡の性格については今後検討する必要があります。

記者発表・現地説明会で配布した資料は当協会ホームページからご覧いただけます。



鏡山山麓の窯跡群を調査

星ヶ峰遺跡：蒲生郡竜王町字鏡



【写真上】 黒く見えるのは灰原の炭化物が露出している状況です。
 【写真下】 調査地の一部を掘り下げて下層を確認した状況です。地表から、70 cmほど下に灰原の堆積層が確認できます。

ほしがみね
 星ヶ峰遺跡は、蒲生郡と野洲市の境に位置する鏡山かがみやまの麓すえきにあり、古代の須恵器の生産地として知られています。鏡山一帯には、古墳時代後期（約1,500年前）から奈良時代（約1,300年前）にかけての窯跡がたくさんあります。予防治山事業にともない行った今回の発掘調査では、古墳時代後期から飛鳥時代の灰原1基が見つかりました。灰原とは、須恵器を焼いたあとに出る灰や不良品、剥がれ落ちた窯の壁の破片などを捨てたものです。



古墳時代の集落を調査

下川原遺跡：甲賀市水口町泉



古墳時代の竪穴住居

しもがわら
 下川原遺跡は、甲賀市北部の野洲川そまがわが合流する平野部にあり、縄文時代から中世にかけての集落跡として知られています。これまでに行われた発掘調査では、縄文時代後期の土坑や弥生時代中期の溝、奈良時代の竪穴住居、鎌倉時代の溝と建物などが見つかった。



溝から出土した須恵器の甕

ています。国道1号の改良舗装事業にともなう行った今回の発掘調査では、古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴住居1棟（写真下左）や溝（写真下右）などが見つかりました。溝からはたくさんの須恵器が出土しました。

湖西のパワースポット

上御殿遺跡：高島市安曇川町三尾里



かみごてん
上御殿遺跡は、高島市南部の鴨川左岸の平野部にあり、縄文時代から中世にかけての集落跡・墓跡として知られていません。青井川河川改修事業にともない、平成20～26年度に発掘調査を行いました。平成25年度には弥生時代中期から古墳時代前期のそうかんつかがしらたんけん双環柄頭短剣の鋳型などが発見されるなどこれまでの調査で様々な成果が上がっています。

今年度の調査でも河川跡が3本みつかっています。そのうちのひとつは、古墳時代から室町時代（約1,700年前～約450年前）にかけてのもので、深さは1.4～1.7mありました。平安時代（約1,200～800年前）までは東西方向に、室町時代以降は南北方向にと、幅約25mの範囲をそれぞれの時代の河川が5～10mの幅で流れていました。

河川の中からは土器や木製品がたくさん出土しました。木製品には奈良時代から平安時代にかけての祭祀具（人形代・さいしぐ ひとかたしろいぐし 斎串：写真下左）や木沓（きぐつ写真下右）などがあります。別の平安時代以降の河川跡は、東西方向に流れる、幅約6m、深さ約0.5mのもので、杭や網代などを使って護岸作業をした跡も見つかりました（写真下中央）。



謎の寺院、解明できるか

安養寺遺跡：近江八幡市安養寺町



滋賀県立安土城考古博物館の敷地に移設した安養寺遺跡から出土した礎石

(写真上)などが、溝や柵(写真左頁)・建物跡とともにみつかりました。

たくさんの瓦が見つかったことから、これまで知られていなかった寺があったと推定され、溝や柵・建物はその寺の一部と考えられます。東西方向に延びる柵より南側からは瓦がほとんど出土していないことから、この柵が寺域の南の端と思われます。このほか、礎石(直径約0.8m・高さ約0.5m)も見ついています(写真左)。瓦の中に鴟尾しびあるいは鬼瓦と思われるものがあることから、付近に塔や金堂といった伽藍がらんの中心施設があったと思われます。

安養寺遺跡は、近江八幡市南西部の日野川左岸の平野部にあり、古代の遺物散布地として知られています。県道建設事業にともない平成24年度から発掘調査を行っています。今回の発掘調査では、奈良時代を中心とした時期の瓦

発掘調査地点から南東約800mに、「安養寺廃寺」と呼ばれている寺跡があります。これと新発見の寺跡は、それぞれが中心伽藍を持つと考えられることや距離が離れていることから、別々の寺と考えられます。

記者発表・現地説明会で配布した資料は当協会ホームページからご覧いただけます。

古代の港町のにぎわい

塩津港遺跡：長浜市西浅井町塩津浜



紀元前 15000 年	紀元前 300 年	紀元後 300 年	700 年	800 年	1200 年	1400 年	1500 年	1500 年
旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町
							安土桃山	江戸

しおつこう
塩津港遺跡は琵琶湖最北端にある古代から続く港で、北陸地方から陸路で運ばれてきた荷物を大津へと積み出す港として栄えました。国道8号塩津バイパス建設工事にもない、平成24年度から発掘調査をおこなってきました。

今回の発掘調査では、造成工事によって琵琶湖を埋め立ててつくった古代の港の施設跡が見つかりました。造成工事は12世紀中頃から開始され、琵琶湖側に陸地を広げていきました。

造成工事は、最初にシガラミ（打ち並べた杭に小枝や竹をかためたもの：写真下中・右）や隙間なく打ち込んだ杭列（写真下左）、菱垣（木の板を菱形に組んで作った垣）などで仕切りを作り、内側に人頭程度の石材を多量に投入し、その後、当時のゴミ（木材の削り屑や生活雑器）などを入れ、最後に砂や粘土などを敷いて整地していました。一部は「版築（粘土や砂を交互に敷きつめて突き固めること）」で上面を仕上げていました。

出土した遺物には、工事に使われた鋤の一部（鋤先）や、鍛冶屋さんが使ったヤットコ（熱した鉄をつかむためのハサミ）や鑿（のみ）の五徳、鍋を火にかける時に使用するごとく、当時の万能刀である小刀などの金属製品、木製や角製の筭（髪を整えたりする髪飾りの一種）などがあり、港町の様子が手にとるようにわかり、その賑わいが伝わってきます。





古代の溝からざっくざく

蛭子田遺跡：東近江市木村町ほか



えびすだ
蛭子田遺跡は、日野川沿いの平地にあり、弥生時代から平安時代の集落跡として知られています。すぐ近くには史跡公園となっている県指定史跡の木村古墳群があります。過去の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓や弥生時代後期から古墳時代後期にかけての河川・竪穴住居・掘立柱建物などが見つかっています。

道路改築事業にともないおこなった今回の発掘調査では、古墳時代の河川跡と平安時代の溝1条（写真左）が見つかりました。溝の中には、たくさんの土師器の皿が埋まっていました。



江戸時代の神社遺構を調査

文殊院遺跡：甲賀市甲南町池田



もんじゆいん
文殊院は、甲賀市中央部の柚川近くの山腹にあり、仁寿3年(853)に円仁が創建し、ひのお檜尾神社の別当寺として8院を有したと伝えられます。

今回の発掘調査は、宝永3年(1706)に建て替えられたとされる文殊院北側にある檜尾神社本殿（県指定有形文化財）の解体修理にともない行いました。

出土した遺物は、瓦や陶器の灯明皿、さいせん賽銭として奉納された銭貨などがあります。瓦の組み合わせを検討した結果、江戸時代以降の神社本殿は棟付近にのみ瓦を葺いていたと想定されました。

本殿の上屋を撤去した状態

え！こんなところに城館が！？

貴生川遺跡：甲賀市水口町貴生川



紀元前 15000 年	紀元前 300 年	紀元後 300 年	700 年	800 年	1200 年	1400 年	1500 年	1500 年
旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町
								安土 桃山
								江戸



堀完掘状況

基礎部の幅は最大 8 m で、堀を掘った土を内側に盛って土塁を作ったとするならば、堀底から土塁上面までの高低差は 5 m 以上になります。簡単に登れるものではなかったと考えられます（写真上）。

遺物は堀、曲輪内の溝・土坑から日常雑器（信楽焼の播鉢、土師器の皿）等が出土しています。このことから城館は日常的に使用されていたと考えられます。出土した遺物の年代から、城館として機能していた最終段階は 16 世紀後半代と考えられます。

これは織田信長による近江侵攻（1570 年）から、羽柴秀吉によって甲賀の地侍が城と領地を没収された「甲賀ゆれ」（1585 年）、中村一氏の水口岡山城の築城（1585 年）など、甲賀地域の政治的な動向を反映している可能性が高いと理解できます。

貴生川遺跡は、きぶかわ 貴生川 そまがわ 沿いに発達した河岸段丘上にあります。土地区画整理事業にともない行った今回の発掘調査では、新たな戦国時代の城館が見つかりました。

城館は方形の堀と土塁で囲まれた、一辺約 50 m の「たんかくほうけい 単郭方形」とよばれる構造をしています。堀の幅は平均 6 m、深さは 2.8 m ありました（写真左頁左）。残っていた土塁の



16 堀断面



曲輪内井戸

記者発表・現地説明会で配布した資料は当協会ホームページからご覧いただけます。

今年も平穩無事でありますように

松原内湖遺跡：彦根市松原町

紀元前 1500年	紀元前 300年	紀元後 300年	700年	800年	1200年	1400年	1500年	1500年		
旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸



まつばらないこ
松原内湖遺跡は、彦根市北部の旧松原内湖と佐和山丘陵が接する低湿地付近にあります。縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡として知られていて、国道8号米原バイパス事業とともない平成24年度から発掘調査を行っています。

かんじょういた
巻数板は、鎌倉時代から室町時代にかけての集落内の土坑(穴)から見つかりました(写真上)。大きさは縦128mm・横278mm・厚さ

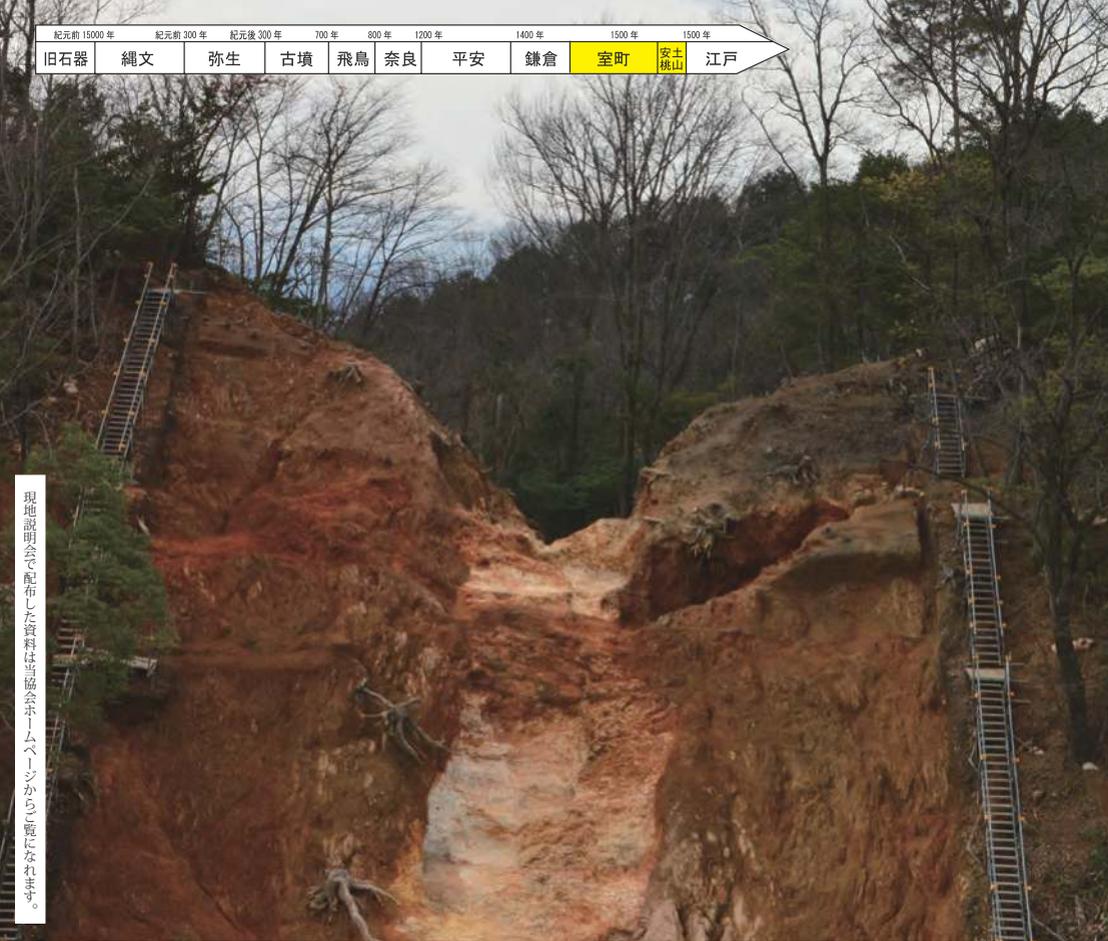
7mmで、表面に墨で77文字が書かれています。

正月にお経などを奉納して、その年を平穩無事に過ごせるように願った内容が読みとれ、災厄が入ってこないように集落の外側に向けて吊り下げたと考えられます。使われた年は、書かれている「元徳三年(1331)」と推定できます。今でも、一部の地域で巻数板を吊り下げる行事が行われています。

【釈文】
 奉転読仁王经一座
 般若心经十二卷
 観世音经十二卷
 奉懸灌頂十二流
 率都婆十二本
 右志者為当年行
 疫流神等信心大施主
 息災延増長福寿
 故也仍状如件
 元徳三年正月八日
 大法師 白 敬

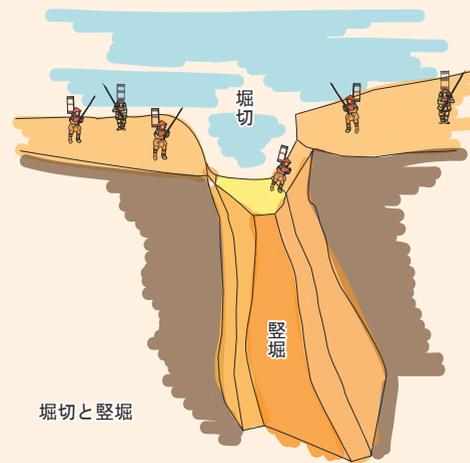
記者発表・現地説明会で配布した資料は当協会ホームページからご覧になれます。

現地説明会で配布した資料は当協会ホームページからご覧いただけます。



信長の佐和山城攻め

松原内湖遺跡：彦根市松原町



尾根筋を分断する^{ほりきり}堀切とその両末端から斜面にかけての東西2つの^{たてぼり}豎堀が見つっています。その構造から戦国期のものと考えられます。そしてこれらが築かれた契機は、織田信長による佐和山城攻めと考えられます。信長による佐和山城攻めは、『信長公記』によれば、元亀元年(1570)の姉川合戦後に行われ、城に籠城した浅井氏家臣の磯野員昌を包囲し、8か月後に開城させたとしています。これに関連してた遺構として、佐和山城^{おしやま}と物生山城の間の尾根上でも同様の堀切が見つっています。

みだしな えぼし 男の身嗜み、烏帽子

大石城遺跡：大津市大石龍門



取り上げた烏帽子

おおいしじょう
大石城遺跡は、瀬田川・大石川が合流する付近にあります。大石川改修事業にともないおこなった今回の発掘調査は、大石地区における初めての本格的な調査となりました。その結果、鎌倉時代(約600～700年前)の集落跡が見つかりました。

そのなかで注目されるのが、烏帽子です。烏帽子とは、平安時代から室町時代頃

て、成人男性が日常的にかぶっていた帽子(左上イラスト)です。かぶる人の身分によっていくつかの種類がありました。今回みつかった烏帽子は、風折烏帽子と呼ばれるもので、かぶっていても動作の邪魔にならないので、武士や庶民が好んで使っていました。出土した風折烏帽子は、布地で作られた素地に黒漆を塗って仕上げられていました(写真右下)。

平成 26 年度調査事業一覧



⑬名勝青岸寺庭園



⑯横山遺跡

⑫名勝青岸寺庭園（米原市米原）

名勝青岸寺庭園は、彦根城楽々園の作者である彦根藩士の香取氏によって、江戸時代に整備されたといわれています。保存修理事業にともない発掘調査を行いました。

⑬西明寺遺跡（犬上郡甲良町池寺）

西明寺は、湖東三山の1つです。境内の総門建て替え工事にともない発掘調査を行いました。



⑬西明寺遺跡

⑭長浜城遺跡（長浜市公園町）

長浜城は、羽柴秀吉が天正4年（1576）に築いた城です。庭球場改築工事にともない、長浜城跡の推定範囲の一面で発掘調査を行いました。築城当時の瓦などが出土しています。

⑮島遺跡（近江八幡市島町）

島遺跡は、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。砂防工事にもない発掘調査を行ったところ、奈良時代頃の河川跡などが見つかりました。



⑭長浜城遺跡

⑯横山遺跡（長浜市高月町唐川）

横山遺跡は、縄文時代から中世にかけての集落遺跡として知られています。長浜市立七郷小学校プール建設工事にともない発掘調査を行いました。弥生時代中期から古墳時代後期の溝や自然流路が見つかりました。



⑮島遺跡

【発掘調査】

No.	遺跡名	所在地	調査内容	面積 (㎡)	主な遺構・遺物
国土交通省事業					
1	松原内湖	彦根市	発掘	6,900	奈良時代・鎌倉時代～室町時代の集落跡、戦国期の堀切・堅堀・石列等を検出。
2	塩津港	長浜市	発掘	1,448	平安時代末の護岸をもつ盛り土造成を確認。大量の木製品、金属製品等が出土。
3	下川原	甲賀市	発掘	870	古墳時代前期の堅穴住居等を検出。
県土木交通部河港課事業					
4	大石城	大津市	発掘	1,600	鎌倉時代の土坑や小穴等を検出し、県内4例目の塗張り鳥帽子が出土。
5	上御殿	高島市	発掘	2,899	古墳時代の集落跡・古墳、弥生時代終末～平安時代の旧河道等を確認。
県土木交通部道路課事業					
6	安養寺	近江八幡市	発掘	1,800	古代～中世の集落跡。大量の古代瓦や礎石等が出土。
7	蛭子田	東近江市	発掘	182	多量の土器を含む平安時代の溝を検出。
県土木交通部砂防課事業					
8	島	近江八幡市	発掘	355	古代の河川跡や近世の整地層を検出。
県教委建造物係事業					
9	文殊院(繪尾神社)	甲賀市	発掘	52	本殿の基礎部分で現存建物に先行する土坑を確認。
県琵琶湖環境部事業					
10	蛭ヶ峰	竜王町	発掘	40	古墳時代後期後半の須恵器窯に伴う灰原1ヶ所を確認。多数の須恵器が出土。
県土地開発公社事業					
11	堀ヶ谷	竜王町	発掘	20,700	縄文時代の落とし穴、弥生時代中期の堅穴住居、中世の墓等の遺構を検出。
市町事業					
12	養生川	甲賀市	発掘	5,557	古墳時代中期・平安時代末～室町時代の集落跡、室町時代の城館等を検出。
13	横山	長浜市	発掘	700	弥生時代・古墳時代に埋没した溝や河川を検出。
14	長浜城	長浜市	発掘	3,515	江戸時代後期の耕作に関わる遺構を確認。長浜城に関わる遺構は確認されず。
15	西明寺	甲良町	発掘	32	総門建て替えに伴う調査。前身基礎跡は確認されず。
16	名勝青岸寺庭園	米原市	発掘	25	茶室周辺の敷こぼしを調査し、埋没していた景石等を検出。
	計			46,675	

【整理調査】

No.	遺跡名	所在地	調査内容	発掘年度	備考	主な遺構・遺物
国土交通省事業						
1	入江内湖	米原市	整理	21・22	○	旧内湖から縄文時代・古墳時代の遺物が出土。
県土木交通部河港課事業						
2	大石城	長浜市	整理	26		発掘調査終了後に整理調査を実施。
3	塩津港	長浜市	整理	18・21・25		平安時代後期の神社跡を検出。木製品等が多数出土。
4	天神畑・上御殿	高島市	整理	20～25		古墳～平安時代の旧河道等を検出。旧河道から木製祭祀具等も出土。
県土木交通部都市計画課事業						
5	横江ほか	守山市	整理	22～24	○	弥生時代～古代の河川跡、平安時代～中世の集落跡等を検出。
6	沢尻	甲賀市	整理	23・24		中世の溜め池・溝・小穴等を検出。
7	新堂前	草津市	整理	23	○	鎌倉時代の区画溝と井戸を検出。
県土木交通部道路課事業						
8	安養寺	近江八幡市	整理	25・26		調査終了後に整理調査を実施。
9	金森西	守山市	整理	23～25		古墳時代前期の集落跡・旧河道を検出。玉つくり関連遺物が出土。
10	横山城・朝日	長浜市	整理	24・25		古墳時代後期の古墳、複雑に重複した奈良時代の堅穴住居30棟を検出。
11	太子	大津市	整理	25		縄文時代の土器箱墓、中世の掘立柱建物等を検出。
12	岡	栗東市	整理	23・25		古墳の周濠、奈良～平安時代の掘立柱建物・溝等を検出。
13	開津・開津城	大津市	整理	21～23	○	鎌倉時代の築、戦国期の開津城に関連する屋敷跡等を検出。
14	弘部野南海道	高島市	整理	24	○	奈良時代を中心とする遺物が出土。
県土木交通部砂防課事業						
15	島	近江八幡市	整理	24～26		奈良時代の土坑墓、近世の石列等を確認。
県農政水産部事業						
16	相谷熊原・相谷下村・相谷寺前	東近江市	整理	21～23	○	縄文時代の堅穴住居・土坑を検出。多数の遺物が出土。
17	下羽田(浄化池)	東近江市	整理	21～23		縄文時代の土器箱墓、奈良時代～平安時代の石敷遺構等を検出。
18	狛氏館	東近江市	整理	23・24	○	弥生時代の石蔵、古代～中世の土器が出土。
県下水道事務所事業						
19	松原内湖	彦根市	整理	24	○	掘立柱建物で構成される中世の集落跡を確認。
県病院事業庁事業						
20	吉身西	守山市	整理	25		古墳時代の墓と住居、奈良・平安時代の集落跡、土器埋納遺構を検出。
県教委建造物係事業						
21	文殊院	甲賀市	整理	26	○	調査終了後に整理調査、報告書執筆を実施。
県琵琶湖環境部事業						
22	蛭ヶ峰	竜王町	整理	26	○	調査終了後に整理調査、報告書刊行を実施。
県土地開発公社事業						
23	堀ヶ谷	竜王町	整理	26		調査終了後に整理調査を実施。
市町事業						
24	横山	長浜市	整理	26	○	調査終了後に整理調査、報告書の原稿作成を実施。
25	長浜城	長浜市	整理	26	○	調査終了後に整理調査、報告書刊行を実施。
26	西明寺	甲良町	整理	26	○	調査終了後に整理調査、報告書刊行を実施。



刊行年月日：2015年（平成27年）7月18日

編集・刊行：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2 滋賀県埋蔵文化財センター内

TEL：077-548-9780 / FAX：077-543-1525

URL：<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

【写真】貴生川遺跡城館遠景（東より）